

みんなが幸せになれる社会を目指して

金武町立金武小学校 五年

仲間 里咲

「里咲が生まれた時、お父さんもお母さんも幸せだったよ。」

前にお母さんから、そんな言葉をかけられたことがありました。私の誕生で、みんなが幸せになったという話を聞いて、私はうれしくもあり、照れもしました。

「みんなが幸せになれる社会。幸せを実感できる社会。そんな社会だったら最高だね。」

そんな話をお母さんとしたこともありました。

これまで私は、学校での学習や新聞やニュースなどで、七十年以上も前の戦争について知ることができました。戦争によつて、人々の幸せが一しゅんで消えたことが想像できます。楽しい時間をうばい、笑顔をうばった戦争から、何も生まれたものはないと私は思います。だから、戦争は二度と起こしてはいけないし、起きてほしくはありません。

「みんなが平和でくらすえますように。」

これは、きつと世界中の多くの人が望んでいることだと思います。それなのに、なぜ、戦争や争いが起きてしまうのだろう。私は不思議に思いました。戦争そのものをしたいと思ったり、喜んでやっていたりする人はいないはずです。でも、いくつかの国では今も争いをして、いつもだれかが命を落としています。

「どうして。どうしてこんなことになるの。」

そんな疑問を抱えていました。

以前私は、ノーベル平和賞を受賞したマララさんが書かれた本を読みました。その中に「だれにでも幸せになる権利がある」という言葉がありました。お母さんとの会話を思い出し、なんだかい気持ちになりました。世界中のお父さんお母さん達が、自分の子どもの誕生に幸せを感じたと思います。それなのに、

戦争や争いのある国に生まれ、育つ子どもや生活している人々にとっては、その権利が守られていないことが想像できたのです。戦争の中では、幸せになてなれるはずがないのです。だれにでも与えられた権利、どこの国の人々にも平等に与えられた権利、それをうばっている戦争や争いが、私はゆるせなくなりました。

名護に新しく基地を作ることに対しての反対運動の報道が、毎日のように新聞やニュースで流れています。私の住む町にも基地があります。オスプレイもよく見ます。いつもは何とも思わないことに私は注意をはらって考えてみました。そして気づいたことは、戦争をしたために基地があったり、基地をつくったりしているのではないはず…ということです。だれも、進んで戦争をしたり、殺し合いをしたりしたいと考える人はいないと私は思います。でも、結果的にそうなってしまうのだと思ったのです。何のために基地があるのか、今の私にはよくわかりませんが、戦争を好んでいる人はいない、と私は考えます。だから、みんなが幸せにくらせる世の中、世界をつくることは、決して不可能なことではないと思います。一人ひとりの気持ち、行動によつて、だれもが幸せを感じることができる世の中をつくることができると信じています。

お父さんお母さんからもらった命。私の誕生をみんなが喜んでくれたこと。それは、私だけのことはありません。世界中に住む人たちすべてが、そうやって生まれてきたのです。そのことを、もう一度私たちは考えていきたいです。そうすることで自分の命を、そしてまわりの人の命を大切にできると思います。世界中の人々が同じ思いをもつことができたのなら、戦争や争いはなくなるはず。そして、だれにでも平等に与えられた『幸せになる権利』を守りながら、幸せを実感しながら生きていけると私は思います。自分の命を、そしてまわりの人の命を大事に思うことを、まずは学校の友達に呼びかけます。